

洋菓子店の倒産、過去最多 前年度から 6 割増 「原材料高」が打撃

ケーキ原価は 5 年で最大 1.3 倍
洋菓子店の 6 割「業績悪化」

「洋菓子店」の倒産動向(2024 年度)



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部:tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/04/03

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2024 年度に発生した街の洋菓子店の倒産は 51 件発生し、前年度の 1.6 倍となり、過去最多を更新した。小麦粉、鶏卵、砂糖、バターといった原材料価格の上昇を、ケーキの販売価格に転嫁できず、利益が確保できない店舗が目立った。消費者の買い控えやコンビニスイーツとの競争など経営環境は厳しく、今後も倒産増加が続く可能性がある。

株式会社帝国データバンクは、ケーキ店など「洋菓子店」の倒産発生状況について調査・分析を行った。

集計期間:2000 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

集計対象:負債 1000 万円以上・法的整理による倒産

「洋菓子店」の倒産、2024 年度は過去最多 前年度から 6 割増

ケーキ店など「街の洋菓子店」の倒産が急増している。2024 年度(2024 年 4 月～25 年 3 月)に発生した「洋菓子店」の倒産(負債 1000 万円以上、法的整理)は 51 件発生した。前年度(32 件)から 1.6 倍増加し、これまで最も多かった 2019 年度(44 件)を上回って最多を更新した。

洋菓子店の倒産増加が続いた 2019 年度までは、コンビニなどの安価で手軽なスイーツとの競争激化に耐えられず、市場からの退出を余儀なくされたケースが多かった。当時に比べると、2024 年度は原材料や包装資材の仕入価格が高騰しているほか、販売スタッフなどの人手不足、大手チェーンや近隣他店との競争激化などが加わり、厳しい経営環境が続いている。なかでも、原材料として使用量の多い小麦粉のほか、鶏卵や砂糖、バターといった食材に加え、円安の影響を受けたナッツやフルーツ、カカオ不足で高値が続くチョコレートなど、主要な菓子原材料の価格が軒並み高騰したことが大きな打撃となった。実際に、一般的なショートケーキ(ホール・18cm 丸型)にかかる原材料コストについて、帝国データバンクが店頭価格データなどを基準に「ケーキ原価」として算出した結果、ショートケーキの原価はイチゴなどの価格高騰を背景に 5 年間で 2 割超上昇した。チョコレートケーキの原価も、カカオ不足の影響を受けて 5 年間で約 3 割上昇するなど、ケーキの製造にかかわるコストの上昇傾向が顕著となっている。

こうしたコスト増加分をケーキの販売価格に転嫁できず、利益を確保できない洋菓子店の割合が増えている。2024 年度の洋菓子店における損益状況をみると約 3 割が赤字となったほか、「減益」を含めた「業績悪化」の割合は約 6 割にのぼり、過去最大だった 2020 年度(70.3%)以来の水準となった。安価で高品質、充実した品ぞろえの「コンビニスイーツ」や、店舗拡大を進める大手洋菓子チェーン店との競争があるなか、スケールメリットによるコスト低減余地に乏しく、昨今の物価高で価格に敏感な消費者による買い控えを懸念して値上げが難しくなっていることも、洋菓子店の倒産が急増した要因になったとみられる。

足元では、シーズン商品や新商品の投入頻度を高めることで来店を促し、ケーキ 1 個あたりの利益率を引き上げ、物価高を乗り切ろうとする洋菓子店も増えている。ただ、カカオなどの原材料価格は引き続き高騰が見込まれるなど経営環境は厳しく、2025 年度も倒産増加が続く可能性がある。

「洋菓子店」の倒産動向と背景

